

【氏名】深山 直子

【所属大学院】(助成決定時)

東京都立大学大学院 社会科学研究科 社会人類学専攻 博士課程

【研究題目】

ニュージーランド大都市圏の多文化状況におけるマオリ部族法人の成立と「新たな先住性」の構築

【研究の目的】

近年ニュージーランドではマオリ部族集団が、公的な法的根拠を主張する法人組織、すなわち部族法人へと姿を変えている。とりわけ1950年代以降は、都市に移入し、出身部族集団との紐帯を希薄化あるいは変質化させたマオリが、先住権の確保と管理を効率的に促進するために、従来とは異なる原理で集団を結成し組織化・法人化を進めつつある。本研究では、オークランドで新たに誕生した部族法人を事例に、その特質と諸活動を分析することを目的としている。ただし調査開始直後に、当部族法人内部における財政問題が公となり、当法人に直接接近することが困難となった。そのために調査対象を拡げ、オークランド市街地に位置する祭祀・集会所マラエの所有あるいは管理を軸に、組織化を果たしている4つの都市マオリ集団をも分析することとした。

【研究の内容・方法】

①オークランド大学マオリ学部における予備調査。

マオリ学部に訪問研究員として滞在し、複数のマオリ研究者から本研究に関するアドバイスを得た。

②オークランド市における文献調査。

オークランド大学図書館(ニュージーランド太平洋・コレクション、マオリ・コレクション)、オークランド市図書館、官公庁資料室を中心に、文献史資料の閲覧、複写、購入を行った。

③部族法人を対象とした調査。

西オークランド、ワイパレイラ市に位置する部族法人テ・ファーナウ・オ・ワイパレイラについて、法人関係者からの聞き取り、集会や活動の参与観察を行った。その際、特に部族法人前史、法人化経緯、法人化以降の先住権確保をめぐる訴訟・政治活動の動向の3点に注目した。

④祭祀・集会所マラエを対象とした調査。

オークランド市街地において戦後新たに建設され、所有・管理形態という点で近代的・都市的特徴を顕著とする以下の4つの祭祀・集会所マラエについて、関係者からの聞き取り、集会や行事の参与観察を行った。

- (1) テ・ティラ・ホウ・マラエ（他地方を拠点とする部族法人トウホエのオークランド支部組織が所有・管理）
- (2) ワイパパ・マラエ（オークランド大学が所有、マオリ学部が管理）
- (3) オワイロア・マラエ（マヌカウ市が所有、オークランドを拠点とする部族組織が管理）
- (4) テ・ウンガ・ワカ・マラエ（マオリ・カトリック教会が所有・管理）

【結論・考察】

都市において 1950 年代以降に誕生した部族法人あるいは都市マオリ集団は、理念や活動目的において、あるいは祭祀・集会所を構成する物質文化において、汎マオリ性・脱部族性を強調し、それを「新たな先住性」主張の根拠とする傾向が強い。しかしながら、実際に集団の構成員をみていくと出身部族には偏りがあり、多数派出身部族の構成員は、祭祀・儀礼の手順・方法の選択や集団内リーダーシップにおいて、支配的に振舞うことが多い。また各集団の組織化過程では、都市をもともと伝統的領域とする伝統的部族法人あるいはタンガタ・フェヌア（「土地の人」）との関係性が、常に考慮されるべき問題として認識されていることが指摘される。